食品用・醸造用・化学用機器
設計・製作販売
関西金属工業株式会社
代表取締役 美馬 徹
〒581-0039 大阪府八尾市太田新町7−76
☎072(949)0210 FAX072(948)3734
http://kankin.com

「毎月8日は歯ブラシの交換日」
全日本ブラシ工業協同組合
理事長 稲田眞一
〒577-0065 大阪府東大阪市高井田中1−5−3（東大阪市立産業技術支援センター内） ☎06(6787)6162
FAX06(6787)6163

大阪・八尾エリアに新たな動き！

大阪府の中東部に位置する八尾市は、府内第3位の工業製品出荷額を誇るモノづくりの街だ。市内では企業、行政、金融機関などモノづくりに関わるさまざまなプレーヤーが日々、めまぐるしく活動している。地域における最近の目立った動きを紹介する。

府下3信金が合併

資金量2兆円超　大阪シティ信金誕生

11月5日、大阪府で最大の信用金庫「大阪シティ信用金庫」が誕生した。大阪市を地盤とする大阪市信用金庫、大阪府東部を地盤とする大阪東信用金庫、大阪市中央卸売市場に本店を置く大福信用金庫の3金庫が合併してスタートした。店舗数は府内に101カ所。2013年3月末の3金庫の預金残高を合わせると2兆2440億円となり、府内で初の資金量2兆円を超える信用金庫が生まれた。新金庫は大阪市内の旧大阪市信金の本店を新しい本店とした。ここに本部機能を集約したため、旧大阪東信用金庫が八尾市に置いていた本店は新金庫の八尾営業部となった。

旧大阪東信用金庫は05年、東大阪市の阪奈信用金庫と八尾市に本店を置く八光信用金庫の合併によって生まれた。これまで八尾市や八尾商工会議所と連携して地域企業を集めた展示商談会を開いたり、商社と協力して中小製造業の海外ビジネス支援に取り組むなど、製造業や町工場との取引に力を入れていた。「ひがしん」の愛称は地域に浸透しており、大阪東部に軸足を置く信金としての存在感を示していた。

ただ、本部が大阪市に移ったことで、八尾市を含む大阪東部地域は信金の組織上、〝周辺地域〟になった。大阪東部の企業を対象としてきた景況調査も、今後、大阪東部に絞った調査を続ける計画はないという。大阪東部やモノづくり企業に軸足を置いたサービスが今後、どう変化するのかが気になるところだ。

中小企業の集積地として知られる大阪東部地域には、優れた技術や製品を有する企業が多数存在する。そのため近年は、南都銀行、京都銀行など資金豊富な地方銀行が相次いで支店を出すなど、金融機関同士の競争環境は厳しさを増している。

大阪シティ信金にとって今回の合併は、「経営基盤を強化して地銀と互角以上の戦いをするための戦略」（広報部）だ。今後のサービス体制についても「変わるところはない」（同）と明言する。従来から取り組んできた海外ビジネス支援や植物工場ビジネスへの参入支援などの事業も新本店と、中小企業支援施設のクリエイション・コア東大阪（東大阪市）、八尾商工会議所（八尾市）に置く企業相談窓口で対応を継続する考えだ。

合併した3金庫はそれぞれが商業、製造業、食品卸売業と異なる得意分野を有することから「取引先同士をマッチングさせる引き出しは以前より増えた」（同）と、新たなメリットも生まれている。大阪東部地域へのサービス体制がどのように変化するかは、今後、支店の統廃合や既存事業の見直しが進む中で次第に明らかになるだろう。

大阪シティ信用金庫の本店（大阪市中央区）

竹渕小学校区まちづくり協議会

地域共存へ工場見学

八尾市は2011年に策定した「第5次総合計画」に基づいて、小学校区を基本単位として市内を28の地域に分け、各地域の現状にあった特色のあるまちづくりに取り組んでいる。12年度には各小学校区が協議会を設け、市民と行政の協力の下「わがまち推進計画」をとりまとめており、13年はこの計画を実現するために予算を設けて、具体的な事業を始めている。

この取り組みの中で地域住民と工場との共存を目指す動きをみせているのが、八尾市の中西部に位置する竹渕小学校区だ。竹渕地区は小学校の周辺に住宅と工場が混在しているため、まちづくりの方針の一つとして「住まいと工場が良好な関係で共存するまち」を掲げ、11月に初の企業見学会を開いた。

小学生が八尾市の竹渕地区にあるチーリン製菓の工場をを訪れ、菓子づくりの工程を見学

見学会は計10人の小学生が近隣の二つの工場を訪問した。参加した小学生は「工場が近くにあるのは知っていたけど、中を見るのは初めて」と目を輝かせて話し、近隣の工場への理解もいくぶん深まったようだった。竹渕小学校区まちづくり協議会の三木晴子会長代行は「こどもが地域に興味を持ち、企業のことを勉強すれば進路を考える上で良いと思う。いずれ竹渕に帰ってきてくれることになれば」と期待を込めている。

工業用パッキンや生産管理ソフトの製造販売を手がけるデジックも小学生の見学を受け入れた。上野雅弘社長が協力したのは「こどもがモノづくりを知って、将来、関わるきっかけをつくれれば」との思いがあるためだ。住民と工場が共生するだけでなく、将来の担い手育成にまでつながれば理想的だ。

八尾市はこうした取り組みを歓迎しており、「これを皮切りに他の地域にも広がると良い。企業側も喜んで受け入れてくれるのではないか」と取り組みの広がりを期待している。

全日本ブラシ工業協組

創立100周年で式典

歯ブラシは大阪東部の地場産業として知られ、八尾市と、隣接する東大阪市に製造事業者数の6割が立地、集積している。中小メーカー計64社の正会員、21社の賛助会員で組織する全日本ブラシ工業協同組合（大阪府東大阪市、稲田眞一理事長、06・6787・6162）は、母体となった組合の発足が1914年（大正三年）で、2013年度が100周年。「いい歯の日」の11月8日に創立100周年式を大阪市内のホテルで開き、来賓含め業界関係者ら191人が会場に詰めかけた。

所管する経済産業省日用品室の多田俊樹室長は「歯ブラシは輸入も少し入っているが輸出もしっかりされているのは立派。日用品で輸出が出来ている業界は少ない」と健闘をたたえた。また日本歯磨工業会の藤重貞慶会長（ライオン会長）は日本の12歳児の虫歯が、この30年で1人当たり4・8本から1・1本へ改善した足跡を示し、「社会の意識向上とともに、毛先が開いたら歯ブラシの赤信号と、長年の業界の啓発活動が貢献した」とこれまでの取り組みの成果を振り返った。

全日本ブラシ工業協同組合の100周年記念式典には来賓と関係者らが数多く出席した（11月8日）

地元の両市長も「八尾は歯ブラシ製造、日本一の街」（田中誠太八尾市長）、「歯ブラシからロケットまでが東大阪市のキャッチフレーズ」（野田義和東大阪市長）と祝辞を述べた。

業界を取り巻く環境は楽観はできず、同組合の稲田眞一理事長は「国内の総人口、生産年齢人口の減少は我々の生産高に直接響く。乗り切るには高付加価値の商品、生産効率の向上しかない。海外製品の入る余地がない高品質の製造技術を継承して進めていく」と語った。

同組合では、多様化した歯ブラシの新たな品質表示方法や、1日3回歯磨きの普及啓発を注力課題に取り組んでいる。同組合の100周年事業では記念誌を14年3月末に刊行予定だ。

ここで見つかる! 新しい何か!
優れた技術、魅力ある製品・サービス等を誇る204社・団体がここに集結!!
ものづくり企業を中心とした総合展示商談会
ビジネスチャンス発掘フェア
11/27(水) 10:00〜17:00　11/28(木) 10:00〜16:00
マイドームおおさか 2階・3階展示場
来場者受付は3階です。受付で名刺2枚をご用意下さい。名刺をお持ちで無い方は、備え付けの来場受付票のご記入をお願いします。
入場無料
◆主　催　北河内産フェア運営委員会（北大阪商工会議所・守口門真商工会議所・大東商工会議所・四條畷市商工会・枚方信用金庫）・八尾市産業博開催実行委員会（八尾市・八尾商工会議所・大阪シティ信用金庫）・柏原市商工会・松原商工会議所・藤井寺市商工会・羽曳野市商工会・大阪狭山市商工会・富田林商工会・河内長野市商工会・和泉商工会議所・大阪府商工会議所青年部連合会・京都リサーチパーク（株）（順不同）
◆後　援　近畿経済産業局・大阪府・大阪府商工会議所連合会・大阪府商工会連合会（順不同）
◆協　賛　公益財団法人日本中小企業福祉事業財団（日本フルハップ）
同時開催　マイドームビジネスフェスタ2013（1階 展示場）

大阪府内のものづくり企業を中心に
204社・団体が出展！
◆出展業種　金属製品、部品／産業機械、電気機械、器具／化学、合成樹脂、紙、印刷
建設／生活関連、情報通信、サービス／産業支援、団体／食品
※詳しくはホームページをご覧下さい。

ビジネスセミナー（事前予約制）　※各定員 250名

11月27日（水）
午後1時30分〜3時
今後の日本経済と世界情勢

講師
同志社大学 学長
村田 晃嗣氏

11月28日（木）
午後1時〜2時30分
進化するビジネスと中小企業の生き残り戦略

講師
東京大学大学院経済学研究科 教授
総合研究開発機構（NIRA） 理事長
伊藤 元重氏

お申し込みはホームページから
http://www.chance-fair.com/
参加無料

問合先　ビジネスチャンス発掘フェア事務局　TEL.072-922-1181
（八尾市産業博開催実行委員会［八尾市・八尾商工会議所・大阪シティ信用金庫］）